



APPENDIX **A**

インストール時のユーザ入力

この付録では、LMS 4.1 のインストール時にユーザが入力する情報について説明します。



(注)

LMS 4.1 のインストールについては、[LMS 4.1 のインストールの実行](#)を参照してください。

この付録では、次の内容について説明します。

- [標準インストールのユーザ入力](#)
- [カスタムインストールのユーザ入力](#)
- [パスワード情報](#)

標準インストールのユーザ入力

標準モードで新規インストールを実行する場合は、次の情報を入力します。

表 A-1 新規インストールのためのユーザ入力：標準

設定	値
<i>admin</i> ユーザのパスワード (Windows および Solaris)	デフォルト値はありません。 <i>admin</i> パスワードを入力します。詳細については、 パスワード情報 を参照してください。
<i>sysadmin</i> ユーザのパスワード (Soft Appliance)	デフォルト値はありません。 <i>sysadmin</i> のパスワードを入力します。詳細については、 パスワード情報 を参照してください。
システム アイデンティティ アカウントのパスワード	デフォルト値はありません。 システム アイデンティティ アカウントのパスワードを入力します。詳細については、 パスワード情報 を参照してください。

標準モードで再インストールを実行する場合は、次の情報を入力します。

表 A-2 再インストールのためのユーザ入力：標準

設定	値
バックアップ フォルダ	バックアップ データのフォルダを入力します。フォルダを参照して、選択することもできます。

カスタム インストールのユーザ入力

ここでは、次の内容について説明します。

- [新規インストールのためのユーザ入力（カスタム）](#)
- [再インストールのためのユーザ入力（カスタム）](#)

新規インストールのためのユーザ入力（カスタム）

カスタム モードで新規インストールを実行する場合は、次の情報を入力します。

表 A-3 新規インストールでのユーザ入力（カスタム）

設定	値
インストール先フォルダ	デフォルトの場所は、システム ドライブ:¥Program Files¥CSCOpx です。 特定の場所にインストールする場合は、別の場所を選択します。 インストール先のフォルダには、短いパスを指定することを推奨します。
<i>admin</i> および <i>guest</i> ユーザのパスワード (必須)	デフォルト値はありません。 <i>admin</i> パスワードと <i>guest</i> パスワードを入力します。詳細については、 パスワード情報 を参照してください。

表 A-3 新規インストールでのユーザ入力（カスタム）（続き）

設定	値
システム アイデンティティ アカウントのパスワード（任意）	デフォルト値はありません。 システム アイデンティティ アカウントのパスワードを入力します。詳細については、 パスワード情報 を参照してください。
<i>casuser</i> ユーザのパスワード：この設定は Windows のみです。（オプション）	空白のままにしておくと、パスワードがランダムに生成されます。
Common Services データベースのパスワード（必須）	データベースのパスワードを入力します。詳細については、 パスワード情報 を参照してください。
Web サーバの設定：（必須） <ul style="list-style-type: none"> • HTTPS ポート • 管理者の電子メールアドレス • SMTP サーバ名 	デフォルトの値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • ポート番号 443。詳細については、ポート番号の設定に関する重要事項を参照してください。 • <i>yourusername@example.com</i> • <i>localhost</i>
自己署名証明書のデータ：（任意） <ul style="list-style-type: none"> • 国番号 • 都道府県 • 都市 • 組織名 • 部署名 • ホスト名 • 電子メールアドレス 	デフォルトでは、自己署名証明書は Windows が登録されている組織およびホスト名を使用して生成されます。 ホスト名を入力する必要があります。それ以外のフィールドは、空白のままにしておかまいません。

ポート番号の設定に関する重要事項

Windows システムで HPOV をサードパーティ NMS アプリケーションとして使用する場合は、IIS サービスをイネーブルにして、HPOV をインストールおよび実行できるようにする必要があります。IIS Web サーバは SSL ポート 443 上で実行されますが、このポートは、LMS をインストールする際の LMS Web サーバのデフォルト ポートです。競合を回避するには、LMS Web サーバの SSL ポート番号を 443 から変更して、1026 ~ 65535（6000 を除く）の範囲にある使用可能な別のポート番号にする必要があります。ポート番号 6000 は Firefox で予約されています。インストール後に（3 つのオペレーティング システムすべてで）SSL ポート番号として 6000 と入力すると、Firefox ブラウザを使用して LMS を起動できなくなります。

再インストールのためのユーザ入力（カスタム）

カスタム モードで再インストールを実行する場合は、次の情報を入力します。

表 A-4 再インストールでのユーザ入力（カスタム）

設定	値
バックアップ フォルダ	バックアップ データのフォルダを入力します。フォルダを参照して、選択することもできます。
インストール先フォルダ	デフォルトの場所は、システム ドライブ:¥Program Files¥CSCOPx です。インストール先のフォルダには、短いパスを指定することを推奨します。
<i>admin</i> および <i>guest</i> ユーザのパスワード (オプション)	管理ユーザとゲスト ユーザのパスワードを変更できます。既存のパスワードを維持するには、空白のままにしておきます。
システム アイデンティティ アカウントのパスワード (必須)	システム アイデンティティ アカウントのパスワードを変更できます。既存のパスワードを維持するには、空白のままにしておきます。
<i>casuser</i> ユーザのパスワード (オプション)	パスワードを入力しない場合は、ランダム パスワードが生成されます。 <i>casuser</i> が存在しない場合は作成されます。
Common Services データベースのパスワード (オプション)	既存のパスワードを維持するには、空白のままにしておきます。
Web サーバの設定 : <ul style="list-style-type: none"> • HTTPS ポート • 管理者の電子メールアドレス • SMTP サーバ名 (オプション)	既存の情報を維持できます。
自己署名証明書のデータ : (必須) <ul style="list-style-type: none"> • 国番号 • 都道府県 • 都市 • 組織名 • 部署名 • ホスト名 • 電子メールアドレス 	デフォルトでは、自己署名証明書は Windows が登録されている組織およびホスト名を使用して生成されます。 ホスト名を入力する必要があります。それ以外のフィールドは、空白のままにしておかまいません。

パスワード情報

ここでは、インストール中のパスワードの使用方法について説明します。

以下の内容について説明します。

- [新規インストールでのパスワードの規則](#)
- [再インストールでのパスワードの規則](#)
- [パスワードの説明](#)

新規インストールでのパスワードの規則

新規インストールには、以下のルールが適用されます。

- 標準モードでは、管理パスワードとシステム アイデンティティ アカウントのパスワードを必ず入力します。ゲスト パスワード、**casuser** のパスワード、およびデータベース パスワードはランダムに生成されます。
- カスタム モードでは、管理パスワード、ゲスト パスワード、システム アイデンティティ アカウントのパスワード、およびデータベース パスワードを必ず入力します。**casuser** パスワードは、入力するか、またはインストール プログラムによりランダムに生成されるようにできます。

再インストールでのパスワードの規則

再インストールの場合は、次の規則が適用されます。

- 標準モードでは、既存の管理パスワード、**casuser** のパスワード、ゲスト パスワード、およびデータベース パスワードがそのまま使用されます。
- カスタム モードでは、管理パスワード、ゲスト パスワード、システム アイデンティティ アカウントのパスワード、およびデータベース パスワードを新しく入力することも、既存のパスワードをそのまま使用することもできます。**casuser** パスワードは、入力するか、またはインストール プログラムによりランダムに生成されるようにできます。

パスワードの説明

パスワードの種類は、次のとおりです。

- [LMS 管理パスワード](#)
- [システム アイデンティティ アカウント パスワード](#)
- [LMS ゲスト パスワード](#)
- [LMS アプリケーションのデータベース パスワード](#)
- [LMS 管理パスワードの変更](#)
- [casuser のパスワードの変更](#)

LMS 管理パスワード

LMS 管理パスワードには、5 文字以上を入力します。

システム アイデンティティ アカウント パスワード

システム アイデンティティ アカウント パスワードを入力する際は、5 文字以上使用します。

マルチサーバ環境では、マルチサーバを構成するシステムのすべての部分を、同一のシステム アイデンティティ アカウント パスワードで設定する必要があります。システム アイデンティティ ユーザを追加するには、[Admin] > [Trust Management] > [Multi Server] > [System Identity Setup] を選択します。

システム アイデンティティ アカウントの詳細については、『*User Guide for Administration of Cisco Prime LAN Management Solution 4.1*』の「System Identity Account」の項を参照してください。

LMS ゲスト パスワード

LMS ゲスト パスワードには、5 文字以上を入力します。

LMS アプリケーションのデータベース パスワード

LMS アプリケーションのデータベース パスワードを入力する場合は、次の規則が適用されます。

- 5 文字以上使用し、15 文字を上限とします。
- 先頭に数字は使用しません。
- 文字間に空白が含まれないようにします。
- 特殊文字は使用しません。

LMS 管理パスワードの変更

LMS 管理パスワードを変更する場合は、LMS のユーザ パスワード リカバリ ユーティリティを使用するか、GUI を使用して変更できます。

- [パスワード リカバリ ユーティリティによる管理パスワードの変更](#)
- [GUI での管理パスワードの変更](#)

パスワード リカバリ ユーティリティによる管理パスワードの変更

LMS のユーザ パスワード リカバリ ユーティリティを使用して、LMS ユーザ パスワードを変更することができます。

Solaris でユーザ パスワードを変更するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** LD_LIBRARY_PATH を手動で設定します。パスは次のように設定されます。
- ```
setenv LD_LIBRARY_PATH /opt/CSCOpX/MDC/lib:/opt/CSCOpX/lib
```
- この環境変数設定は、現在の動作しているシェルのみに適用されます。
- これで LMS のユーザ パスワード リカバリ ユーティリティによるパスワードの変更が可能になりました。
- ステップ 2** コマンドプロンプトで、`NMSROOT/bin/ResetPasswd.pl username` を入力します。
- ここで `NMSROOT` は、LMS のインストール ディレクトリを示します。
- 次のメッセージが表示されます。
- username に対するパスワードを入力します。
- ステップ 3** 新しいパスワードを入力します。
-

Windows でユーザ パスワードを変更するには、次の手順を実行します。

- 
- ステップ 1** コマンド プロンプトで、`NMSROOT\bin\ResetPasswd.pl username` を入力します。  
次のメッセージが表示されます。  
username に対するパスワードを入力します。
- ステップ 2** 新しいパスワードを入力します。
- 

Soft Appliance でユーザ パスワードを変更するには、次の手順を実行します。

- 
- ステップ 1** コマンド プロンプトで、`NMSROOT/bin/ResetPasswd.pl username` を入力します。  
ここで `NMSROOT` は、LMS のインストレーション ディレクトリを示します。  
次のメッセージが表示されます。  
username に対するパスワードを入力します。
- ステップ 2** 新しいパスワードを入力します。
- 

## GUI での管理パスワードの変更

LMS 管理パスワードを LMS サーバから変更するには、次の手順を実行します。

- 
- ステップ 1** admin ユーザとしてログインします。
- ステップ 2** [Admin] > [System] > [User Management] > [Local User Setup] を選択します。  
[Local User Setup] ページが表示されます。
- ステップ 3** [Modify My Profile] をクリックします。  
[My Profile] ポップアップ ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [Password] フィールドにパスワードを入力します。
- ステップ 5** [Verify] フィールドにパスワードを再入力します。
- ステップ 6** [E-mail] フィールドに電子メール ID を入力します。
- ステップ 7** [OK] をクリックします。
-

## casuser のパスワードの変更

casuser のパスワードは、**resetCasuser.exe** を使用して変更できます。

casuser のパスワードを変更するには、次の手順を実行します。

---

**ステップ 1** コマンドプロンプトで、次のように入力します。

```
NMSROOT\Ysetup\Ysupport\YresetCasuser.exe
```

次の 3 つのオプションが表示されます。

1. Randomly generate the password
2. Enter the password
3. Exit

**ステップ 2** 「2」と入力し、Enter を押します。

メッセージが表示され、パスワードの入力が求められます。

**ステップ 3** パスワードを確認します。

パスワードポリシーを把握しておく必要があります。パスワードポリシーと一致しないパスワードを入力した場合は、エラーメッセージが表示され、アプリケーションが終了します。

---